

早期米の管理について

令和2年度産早期米の作付けがスタートし、田植えも終わった時期だと思えます。

まず、気を付けたいのが、田んぼの水管理です。せつかく植え付けても苗がうまく活着しなければ、収量増は見込めません。

春先は、急な突風が吹くことがあり、気象条件が安定しません。強風時は深水、通常時は地温上昇を目的とした浅水をお願いします。どちらも管理作業の基本ではありますが、細かい管理が苗に与える影響は大きいです。

除草剤についても散布が遅くなると効き目が半減します。適期散布を心がけましょう。

6月中下旬にはカメムシ類やイモチ病・紋枯病が発生する時期になります。

カメムシ類については、穂揃時期から乳熟期にかけて、天候を考慮し防除を行いましょう。また、1回目の防除から7～10日後までに2回目の防除を行い、カメムシ類による斑点米の発生を抑えましょう。

※出穂時期とは1圃場において50%程度出穂している状態であり、穂揃時期とは1圃場において90%程度出穂している状態です。

イモチ病・紋枯病については圃場を見回り発生を確認した場合は早期に薬剤散布を行い、被害が拡大しないように努めましょう。



経済部
営農販売課
営農指導係長
森山 貴憲

1. 病害虫防除

1) いもち病・イネミズゾウムシ

ツインターボ箱粒剤 08・・・50g/箱
(播種時～移植当日)

イネミズゾウムシ発生が多い水田では、トレボン粒剤を田植え後本田施用しましょう。(2～3kg/10a)



2) スクミリングガイ (ジャンボタニシ)

スクミノン・・・1～4kg/10a
(移植後 但し収穫60日前まで)



※湛水状態 (3～5cm) で均一に散布し、散布後7日間は湛水状態にして、落水やかけ流しをしないようお願いします。
(使用回数 2回以内)



獅子座
7/23
～8/22

【全体運】 運気は大きく盛り上がり動きが激しいときです。善は急げ、早めに行動が吉。下旬からは守りに回って正解
【健康運】 頑張りが利きますが、休養も忘れずに
【幸運を呼ぶ食べ物】 エビ